



## 教授の呟き

### 第18回

# 第3の物流「流通プロセス産業」を

東京海洋大学教授 苦瀬博仁

#### ●●●「コスト」は最大関心事だが…

日本ロジスティクスシステム協会が主催するロジスティクス全国会議が、毎年秋に開かれている。このとき参加者に実施しているアンケートに、「業務上の課題」という設問があるが、その回答は例年「コスト削減」が1位になっている。

書店のロジスティクス関連の棚には「IT」や「環境」という言葉があふれているが、実務者の最大の関心事は「コスト削減」なのである。考えてみれば、当たり前との感想もなくはない。

しかし、流通の過程で利益を生み出そうとすれば、コスト削減（効率化）もさることながら、付加価値を高める方法（高度化）もあるだろう。

#### ●●●サラダは自動車より高価

「日常で購入する商品は、小型自動車よりも高価だ」と、あるロジスティクスの専門家が語っている。小型自動車が約1.5トンで約150万円とす

れば、100g当たり100円になる。しかし、スーパーで売っている総菜のサラダは100gで200~300円はするから、だそうだ。このことから「車よりサラダの方が単価が高く、利益率も高いはず」とも主張している。

重量単価だけの比較であるが、確かにうなずける部分もある。

#### ●●●物流の高付加価値化

経済学でいう付加価値とは、「生産の過程で新たに付け加えられる価値」である。総生産額から原材料費と機械設備などの減価償却分を差し引いたもので、人件費・利子・利潤に分配される。ロジスティクスに適用すれば、「流通の過程で新たに付け加えられる価値」となり、これによって利益が得られることになる。

付加価値を高めるには、「物流の高付加価値化」と「商品の高付加価値化」の二つが考えられるだろう（表1、2）。

「物流の高付加価値化」は、よく5R（Right Time、Place、Price、Quality and Quantity）と言われるよ

表1 物流と商品の高付加価値化

物流の高付加価値化：生産・在庫・配送管理等の管理技術の向上 (時刻・場所・価格・品質・量の信頼性向上)
商品の高付加価値化：流通プロセス機能(流通過程での商品変化)の向上 (流通加工・包装・生産機能など)

表2 流通加工の種類と内容

加工作業	：検品・仕分け・棚入れ、ピッキング・配分
生産加工	：組み立て・寸法合わせ、スライス・切断、修繕・修復
販売促進加工	：値札付け、詰め合わせ、ユニット化、セット化

うに、確実に正確な時刻・場所・価格・品質・量を保証することが、物流管理技術を向上させ価値を高めることになる。例えば記録にとどめる書留は、確実性が高まるからこそ普通郵便よりも料金が高いように、正確な品質管理や配送・在庫管理自体が、新たな価値を生むことになる。

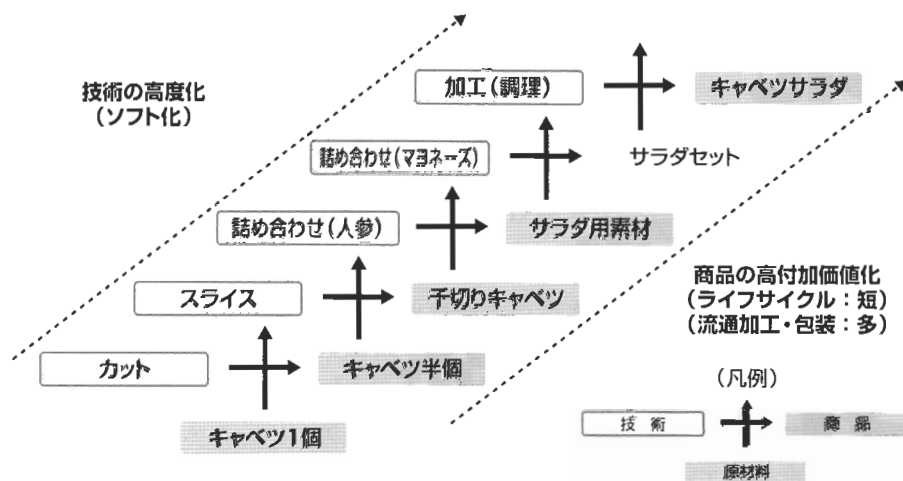
### ●●●● 商品の高付加価値化

「商品の高付加価値化」については、林周二先生の「材料があって、そこにソフトな技術が入ることによって新しい製品ができる」という指摘が参考になる。これにならえば、「キャベツ1個→キャベツ半個→千切りキャベツ→サラダ用素材→サラダセット→キャベツサラダ」となるにつれて、流通加工などのソフトな技術が加わり、低付加価値から高付加価値の商品へと進化していく。キャベツのままなら何日間か保存可能だが、サラダの賞味期間は短いように、高付加価値商品ほどライフサイクルも短くなる<sup>(1)</sup> (図1)。

さらに例を挙げるならば、倉庫でパソコンを組み立てて、ソフトをインストールし、モニターと組み合わせて一緒に発送することもある。輸入した洋服の検針やアイロンがけをしてから、詰め合わせたり値札付けをすることもある。

このように、流通の過程で商品を変化させて付加価値を高める業態は、輸送や保管に続く第三の物流業態であり、流通の過程と加工の意味を二

図1 商品の高付加価値化の例



例：ディスクドライブ→パソコン→ソフト・説明書→CRTパソコンセット  
ネクタイ・ハンカチ→アイロンがけ→値札付け→贈答品セット

重に込めて、「流通プロセス産業」と名付けてもよいと思っている<sup>(2)</sup>。

### ●●●● ロジスティクスの付加価値創造を

もちろん、調達・生産・輸送・保管・包装などを効率化して、コストを削減したい。これと同時に、流通の過程で顧客のニーズに合わせながら、品質向上により物流の価値を高

めたり、商品の付加価値を高める努力も重要だろう。

少なくともコスト削減と同じくらい、物流や商品の高付加価値化に目を向けてもよいのではないかと思うのである。

- (1) 林周二：「システム時代の流通—ハードからソフトへ」、中公新書270、中央公論社、1971
- (2) 苦瀬博仁：「付加価値創造のロジスティクス」、税務経理協会、1999

**Profile**

東京海洋大学 海洋工学部  
流通情報工学科 教授

**苦瀬博仁**

《くせ ひろひと》1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。75年、同大学大学院修士課程修了。81年、同大学大学院博士課程修了後、旧本國土開発に入社。85年から東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長を経て、04年4月より評議員。94年から95年の1年間、フィリピン大学客員教授を務める。主な著書に『付加価値創造のロジスティクス』（税務経理協会）、『都市交通—都市交通計画・都市物流計画』（丸善）、『マニラ・エンジョイ・トラブル』（論創社）、『明日の都市交通政策』（成文堂）

